



五中だより

令和 5 年 3 月 1 日
小平市立小平第五中学校
校長 伊藤 克行
小平市小川町 1 - 7 9 8

トルコと日本の関係について

校長 伊藤 克行

皆さんご存じのとおり、2月6日にトルコで大地震がありました。大きな建物がみるみるうちに粉々となって崩れていく様子をニュース等で目の当たりにしたのではないかと思います。トルコは日本と同様地震国で、数十年に1度くらいのペースで被災しています。しかしながら映像を見て気づいた人もいますが、日本とは建物の強度が大きく異なります。日本では当たり前の「梁（はり）」というものがトルコにはほとんどなく、私のいた都心部のイスタンブルでさえ、高級マンションで上階の床が落ちるとい信じられないトラブルもありました。勤務先の日本人学校が移転した際には日本の建設会社が協力し、学校建物に1年近くかけて耐震工事を行いました。事情が分かるだけに今回の惨事は本当にショックでしたし、余震が続く現在、一人でも多くの方の無事を祈るばかりです

トルコは親日国として有名です。そんなトルコと日本の関係について今回は少し紹介したいと思います。

一つ目のエピソードは明治時代に遡ります。明治天皇に親書を渡すためにエルトゥールル号に乗船したトルコ使節団は、1889年にトルコのイスタンブルを出発後、無事に横浜港に到着し、その役目を果たします。しかし横浜を出発しトルコへの帰途に就いたエルトゥールル号は和歌山県串本町沖で台風に遭い遭難します。600人以上いた乗組員のうち約580人が溺死するという大惨事だったそうです。このとき遭難した言葉の通じないトルコ人を決して豊かとは言えなかった串本町の人たちは自分たちの貴重な食料を与え誠心誠意介抱しました。この出来事をきっかけにトルコの親日感情が芽生えたといわれています。

そしてトルコと日本の関係はこれだけでは終わりません。1985年イラン・イラク戦争中のテヘランでイラク大統領のサダム・フセインが「48時間後にイラン上空を飛行する飛行機を無差別攻撃する。」という声明を出します。テヘランに住む自国民を救うため各国の飛行機がテヘランに救助に向かいます。

一方日本は「空路の安全が保障されない」という理由で日本航空が飛行機を出せないと判断し、自衛隊は「国会の承認に時間が掛かる」という理由で救援に来られないとの発表がなされます。そんな中、途方に暮れるテヘラン在住の日本人に救助の飛行機を出したのがトルコ航空だったのです。テヘランの空港では、トルコ人より先に日本人を飛行機に乗せ、救出してくれたそうです。

この2つのエピソードを映画にしたのが2015年に公開された日本映画「海難1890」です。興味のある人は是非観てください。

この後も2011年の東日本大震災の際にすぐに救援に駆けつけてくれたのはトルコでしたし、原子力発電所の事故によって放射能汚染が広がるなか、最後まで被災地にとどまって救援活動をしてくれたのもトルコでした。日本もトルコで起きた1999年、2011年の2回の大地震に救助隊を送っています。

これらのエピソードを全く知らずにトルコでの生活をしていてもトルコ人の親日感情を感じないトルコ在住日本人はいないと思います。そのくらい買い物に行けばトルコ人に日本のことを尋ねられ、タクシーに乗れば「君は日本人か？」と質問されます。そして必ずと言っていいほど彼らは「日本はとても良い国だ。」と口をそろえて言ってくれました。

今回のトルコ地震でも、日本はすでに救助のため現地に赴いています。私自身は何もできませんが、トルコについて書かないわけにはいかないと感じました。私たちのいるこの東京にも、いつ大地震が起こるか分かりません。だからこそ皆さんに関心をもってもらいたいと思いました。

3年生は2週間ほどで卒業式を迎えます。そして1ヶ月後には2年生は最上級生に、1年生は後輩を迎えることとなります。3年生には残された五中での生活を大切にしてほしいと思います。そして五中生の皆さんが将来、自分のためだけでなく、周りの人のため、日本のため、世界のために役立ちたいと思える人になってほしいと願っています。

中学校体験入学(2/8)



学区内3つの小学校の6年生が、大きな期待と不安を胸に「中学校体験入学」に来てくれました。生徒会役員をはじめとする本校生徒の引率で校内を見学したり、オンラインで五中の説明を聞いたり、部活動紹介の動画を見たりしました。目をキラキラさせながら聞き入っている小学生の姿が印象的でした。準備や当日の運営に関わってくれた生徒のみなさん、ありがとうございました。そして、1, 2年生のみなさん、一学年上の「先輩」になる準備は整っていますか? 3年生のみなさん、卒業に向けて気持ちは整いましたか?

2年校歌コンクール(2/22)

2年生の学年行事として、校歌コンクールが行われました。体育館で、合唱コンクールさながらに、1クラスずつ校歌合唱を披露していきました。

その歌声からは、まもなく五中の最高学年になろうとしている2年生全体の「決意」のようなものが感じられました。

校歌を堂々と大きな声で歌える2年生を、そして小さな行事に対しても一生懸命になれる2年生を誇りに思うと同時に、4月から最上級生として五中の伝統をしっかり引き継いでくれることを確信しました。結果は以下の通りです。



「栄誉賞」2年6組

「伝統賞」2年1組、2組、3組、4組、5組

1年間ありがとうございました

保護者の皆様、地域の皆様、令和4年度も本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。今年度は校長、副校長ともに新任となり、皆様にご心配をおかけしたかもしれません。皆様のご期待に100パーセントお答えできたかどうかは分かりませんが、教職員一同できる限り誠意をもってやってきたつもりです。今後も皆様との信頼関係を深めていけるよう、努力をしてみたいと思いますのでよろしくお願いいたします。